



ほうなん

令和7年度 10月号

令和7年9月30日
杉並区立方南小学校
03(3322)7661

問いをもつ・考える・学び合う

副校長 清原 正之

2年生は、9月の国語の授業で、文学作品『お手紙』（アーノルド・ローベル 作）の学習をしました。この作品は、長く小学校の教科書に掲載されているもので、私も小学2年生の時に学習しました。しかし、だいぶ前のことですので、学習したという事実は覚えているのですが、どのような授業だったのかは残念ながら覚えていません。では、本校の2年生は、今年度どのように学習を進めてきたのでしょうか。簡単にご紹介します。

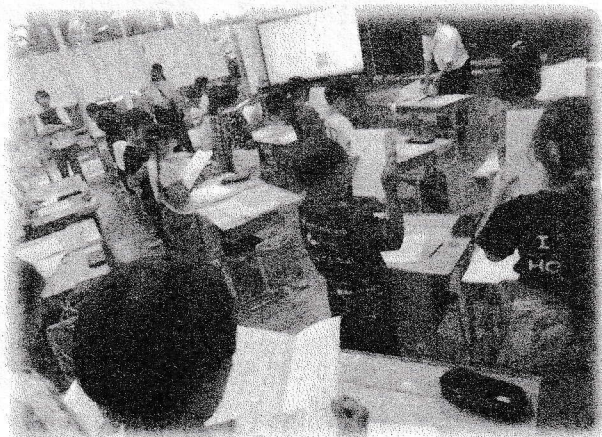
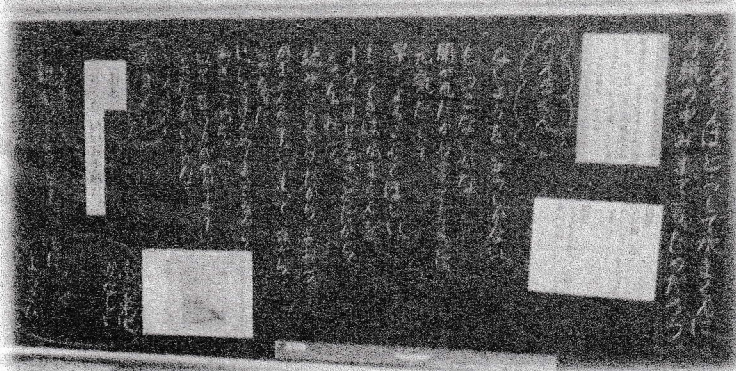
全10時間のうち、1時間目に全文を通読し、「はじめのかんそう」を各自が書きました。そして、書いたものを友達と読み合いました。2時間目には、1時間目に交流した感想を基に、単元のめあて（『お手紙』の学習で目指すゴール）をみんなで考えました。

【単元のめあて】

とうじょう人ぶつの気持ちをそうそうしながらお話を読み、とうじょう人ぶつに手紙を書こう。

3時間目から8時間目までは、物語の各場面の内容を詳しく学習しました。単元のめあてと同様に、毎時間、学習することを指導者が決めるのではなく、子供たちが理解を深めたいと思ったこと、疑問点等をみんなで出し合い、みんなで決めました。例えば、4時間目には「どうして二人はかなしい気分になったのか考えよう」、7時間目には「かえるくんは、どうして手紙の中みを言ったのか考えよう」といった学習課題を、みんなで設定して学習を進めました。

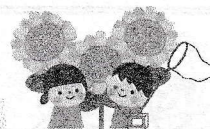
9時間目・10時間目には、登場人物に手紙を書きました。そして、書いた手紙を友達と読み合い、感想を伝え合いました。



2年生の国語に限らず、どの学年のどの教科の学習でも、①自分（またはクラス全体）で問いをもつ→②問いに対して自分なりの考えをもつ→③考えを友達と交流して学び合う→④さらなる問いをもつ、という学びのスタイルができています。

今年度の校内研究（教員の授業力を向上させるための研究）では、「自分の考えを表現し、学び合う児童の育成」を主題として、特に上記の②と③を意識して授業づくりに取り組んでいます。実際に授業を見ていただく機会は、今年度はあと1回（1月24日）ですが、子供たちと指導者が共に授業を創る姿をご覧いただけたらと思います。また、ご多用の中、時々でよいのでお子さんの教科書やノートを見ていただき、どんな学習をしているのか、どのように学習を進めているのかを、お子さんとの会話の話題にいただけたらと思います。

夏休み作品展 ～自由研究・自由工作～



『夏休み作品展』を、9月9日（火）から20日（土）の2週間、各学年のオープンスペースにて行いました。

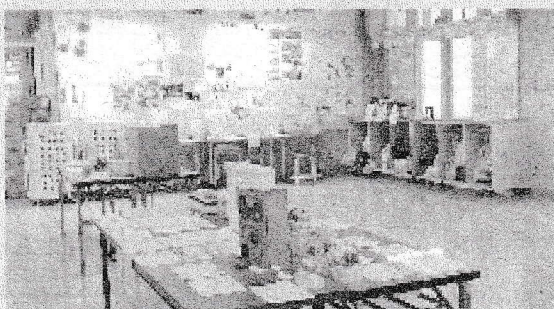
自分でテーマや内容を自由に設定して、夏休みの間じっくりと研究した成果が発揮されていました。

クラスの友達や他の学年の作品を見ていた児童からは、「すごい！」「そうなんだ！」「これはどうなっているの？」という声が聞こえてきました。まとめたプリントを隅々まで読み、どのような仕組みで作られているか覗いてみたりと、友達の作品に興味津々な様子でした。

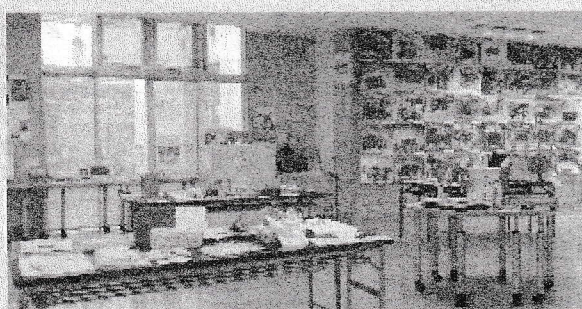
参観された保護者の皆様、いかがでしたでしょうか。楽しかった夏の思い出が感じられる作品や、子どもたちの個性が十分に発揮された作品展だったと思います。

各ご家庭でのご協力ありがとうございました。

1年



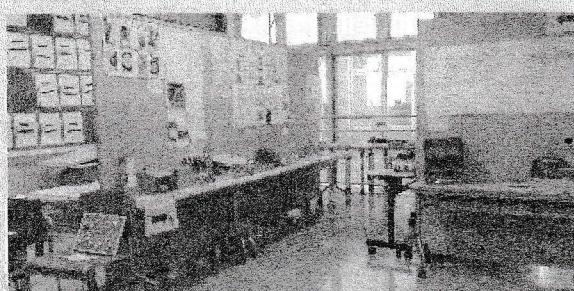
2年



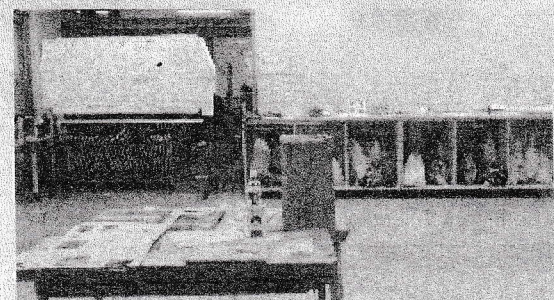
4年



3年



5年



6年

